

「介助犬フェスタ 2024」ボランティア活動報告



「介助犬フェスタ 2024」ボランティア活動報告

2024年度の新入社員3名が、「介助犬フェスタ2024」にボランティアスタッフとして参加しました。

介助犬フェスタは、「見る、知る、感じる、そして楽しむ！」をコンセプトに、介助犬の認知と理解の拡大を目的として年に一度、日本介助犬協会様が主催で開催されているイベントです。

当日は天候に恵まれ、快晴の下で開催されました。対面での開催は、2019年以來5年ぶりということもあり、介助犬と利用者さんとのペアや、子供連れの家族など多くの方が来場されていました。



会場では様々なイベントが催されており、PR犬による介助犬デモンストレーションでは、「靴下の脱衣を手伝い、脱いだ靴下を洗濯カゴに入れる」ことや、利用者さんが「take（テイク）」と伝えると、地面に落ちている鍵を拾って手に渡す様子が実演され、観客からは大きな拍手が送られていました。他にもチャリティーグッズの販売やチャリティーラッフル抽選会などもあり、会場は大いに賑わいをみせていました。



ボランティアスタッフとして参加した新入社員3名は、日本介助犬協会様を支援する新規会員様の募集案内と、ペア認定報告会「感謝の集い」の会場設営ならびに誘導をお手伝いしました。会員募集では、ボランティアスタッフの案内で入会してくださる方もいらっしゃいました。

次頁に、当社から参加したボランティアスタッフ3名の感想を紹介いたします。

ボランティアスタッフ3名の感想

- ▶ 私は『犬が好き』という理由でボランティアに参加しました。現地では80kgのグレートピレニーズから小型犬まで様々な犬種を見ることができ、犬好きにはたまらないイベントでした。ボランティアとして参加した「感謝の集い」では、介助犬が人間にとってパートナーであり、大切な家族であることを知ることができました。介助犬フェスタを通じて、今後、より多くの介助犬が、介助犬を必要とする方と家族になればよいと感じました。
- ▶ 介助犬フェスタを振り返って印象に残っていることは、体が不自由な方だけでなく、子供などの心のケアも行っていると聞いて驚きました。また、ボランティアとして参加した「感謝の集い」では、介助犬の育成や、介助犬とともに人々を支えている方のお話を聞き、介助犬の必要性・介助犬にできることについて、新しく知ることができてよかったです。
- ▶ 今回ボランティアのひとつの仕事として、「感謝の集い」に参加させていただき、介助犬と人との関わり方を知ることができました。犬はペットというイメージが強かった私は、とても衝撃を受けました。最近では、児童虐待などの被害を受けた子供が裁判で発言をしなければならない際、少しでも精神的な負担が軽くなるよう介助犬を同行させる場合もあるとお聞きし、私たちは犬に助けられて生きているんだなと実感しました。私たちが助けられながら共存している介助犬をフェスタで知ったことで、積極的に保護犬活動などにも参加していきたいと思いました。今回は貴重な経験ができ、とても満足です。



【新規会員様 募集活動中の様子】



【5年ぶりに対面で開催した「感謝の集い」】



介助犬総合訓練センター「シンシアの丘」参加者より

ボランティア活動終了後、介助犬総合訓練センター シンシアの丘を見学させていただきました。シンシアの丘は、国内で唯一の介助犬を専門とした訓練施設です。

エントランスの壁面には、支援者の方のお名前が入ったプレートや、介助犬と利用者さんのペアが映った写真が、エントランスいっぱい飾られていました。本活動を通して知ったのですが、介助犬が利用者とペア認定をされるためには、認定試験と審査を通過する必要があります。認定試験の前には合同訓練を40日以上行うことが身体障害者補助犬法で定められており、写真の表情からお互いを信頼しあっている様子を感じ取ることができました。認定試験に向けて、共にトレーニングを積んだ時間があるからこそ、感じたのだと思います。写真に映る介助犬は、みな堂々としていて、どこか誇らしげな表情をしているようにも感じました。

見学させていただいた中で印象的だったのは、犬舎とトレーニング室、そして宿泊型訓練室です。

犬舎は、壁面が薄緑を基調とした色味で落ち着いた雰囲気でした。介助犬が街中で猫と遭遇した際に驚かないよう、日常的に保護猫とも過ごしているそうです。

トレーニング室は犬舎に隣接されていて、家庭環境を想定したリビングのようなレイアウトの部屋でした。机や椅子は勿論、壁面にダンスのスタジオで見かけるような大きさの鏡が設置されていました。介助犬が街中で自分の姿を見た際に驚かないよう、自分の姿に見慣れるために設置しているそうです。



【犬舎で過ごす訓練犬たち】

宿泊型訓練室は、介助犬の利用を希望する方が合同訓練を行うための部屋です。部屋には、机やベッド、バスルームなどが備えられていて、その方に合わせて、机の高さを変えられるなど、生活環境に近づけられる設計となっていました。現在も利用者さんの声を聞いて、改善を図っているそうです。

今回、シンシアの丘の見学を通して、介助犬育成の実状を体感することができました。また、介助犬の育成から引退までの説明をお聞きし、一頭の育成に多くの時間を要すること、多くの方が携わっていることを学び、私も出来る範囲で支援をしていきたいと思いました。日本介助犬協会様のモットーである「人にも動物にもやさしく楽しい社会をめざして」の一助となれるよう日々を過ごしていきたいと思えます。

CIJ は、これからも介助犬の普及促進と、育成支援を積極的に推進いたします。

<以上>